

マーティンは行進に参加した人びとに、自分には夢
があると語りかけました。あらゆる肌の色の人々が平等
なだけでなく、お互いに愛しあえる世界のことを語り
ました。かつての奴隷の息子たちと奴隷所有者の息子
たちが、兄弟のように仲よく同じテーブルにつく夢を
持っていると言いました。

「わたしには夢があります。わたしの幼い4人の子
どもたちがいつの日か、肌の色によってではなく、人
格そのものによって評価される国に住むという夢が。
今日、わたしには夢があります！」

マーティンは、この国のあらゆる州から、町から、
村から、集落から「自由の鐘を鳴りひびかせる」とき
だけ、人びとは本当に自由になれるのだと言って、演
説をしめくくりました。

デモ行進、なかでもマーティンの演説はアメリカじ
ゅうで大きな話題になりました。演説の言葉はアメリ
カだけでなく世界じゅうに感動をもたしました。そ
れは公民権運動のなかでもっとも輝かしく、あらゆる
場所の人びとが、自由と平等は必ず実現すると思えた
瞬間でした。

1963年のワシントン大
行進で、演説を聞こうと
して集まった群衆に呼び
かけるマーティン。

